

2021年度 森泰吉郎記念研究振興基金（研究者育成費）研究成果報告書

武道教育における武士道の研究－死生観に着目して－

慶應義塾大学大学院 政策・メディア研究科 博士後期課程一年

高瀬 武志

研究概要

本研究は、武道の普及が国際的に拡大する一方で、国内における武道人口の減少という状態にある「現代武道」における問題点を教育・コーチングの観点からその要因を明らかにし、改善策を検討する。また、武道教育の核となる要素を武士が「武士のあるべき姿・理想像」として大切にした「武士道」にみられる死生観（死と生に関する考え方）に求め、その変遷と特徴を明らかにする。武士道の死生観の変遷と特徴については「武士道書」と評される文献を研究対象とし、その変遷と特徴が現在の国内外における「武道教育」の現場でどのように指導・継承され「ライフスキルの獲得」に繋がっているかを現地調査とインタビュー調査を実施し明らかにする。

1. 研究の目的

武士は、身分的役割が戦闘者であり、兵法者であり、為政者であった各時代・各立場（身分）において武士としての行動や鍛錬から「日常の生活で生じる様々な問題や要求に対し、建設的かつ効果的に対処する能力」として「ライフスキル」を獲得し、その活用を持って武士道（武士としての理想像・あるべき姿）の死生観（死と生に関する考え方）を形成していった。そして、武士道の死生観は、現代に生きる日本人が大切にしている「誠実」「勤勉」「礼節」といった観念とも共通するように日本人のアイデンティティーに深く影響を与えている。つまり、武士の出現から武士身分の消滅を経て、観念化し国民道徳・国民意識にまで浸透していった「武士道」がどのような変遷を経て、現代まで受け継がれてきているのかを明らかにすることは、武士道が武道だけでなくスポーツ全般、さらには日本で生きる全ての人々の「ライフスキルの獲得」と「死生観の形成」にどのように関係しているかを明らかにすることができると思われる。

また、武士道の死生観について、その変遷と特徴を明確にし、現代に適した「武道教育」の在り方の指摘や指導方法の開発をおこなうことによって、日本だけでなく世界における剣道の普及と発展にどのような施策と方向性を持って指導・育成にあたるのが有益なのかを明確にすることができる。そして、剣道や武道といった限定的な世界での教育的成果に留まらず、日本人や日本に興味関心を抱く全ての人々に寄与することができると思われる。

2. 当該研究期における研究の詳細

当該研究期では、武士道思想の死生観の形成に至る前段階にあたる武士道の体系をまともと同時に武士道の時代的特殊性や思想的性格の背景について文献学手法を用いて調査

し、研究成果としてまとめた。また、当該研究期において特に注力した現代に適した武道教育の在り方や指導法の開発については授業実践や剣道の指導現場での経験的実践知を中心に研究成果としてまとめ学会発表や実践報告論文や研究ノートとして様々な媒体で発表を行った。2021年度の研究成果として武士道思想の体系的整理や時代的特殊性等についての調査に関する研究成果を1冊の著書としてまとめた。さらに武道教育の在り方や指導方法の開発についての研究では2件の学会において学会発表を行った。また、3件の学会ならびに学会機関誌において実践報告を行い、1件の剣道における全国版の専門誌にて特集記事として実践報告を行った。さらに、剣道関連の指導法の著書を2冊刊行予定（2022年3月発行）であり、学会発表ならびに学会機関誌において3件の研究発表と実践報告を予定しており、指導法に関する研究論文2本を査読付き論文誌へ投稿しており、査読を受けている状況である。

コロナ禍であるため、海外における武士道の捉え方や武道教育の在り方について現地に渡航してのインタビュー調査等が実施不可であったため、オンラインでの剣道指導や交流を実施し海外の武道教育等に関する情報交換を行なった。2022年2月13日に5カ国（シンガポール・アメリカ・イタリア・ベトナム・香港）から150名の参加者で剣道指導・交流会を研究活動の一環として開催した。2月26日にオンラインでミーティングを実施し今後も定期的にオンラインでの剣道指導・交流会の開催に関する企画と研究活動の進め方について計画を練った。2022年5月に2回目となるオンラインでの剣道指導・交流会（研究活動の一環）を開催する予定である。

【著書】

- 1) 『武道への誘いーAL型武道教育のこころみー』, 単著, 三恵社, 2022. (3月発刊予定)
- 2) 『ALで学ぶ剣道の形』, 単著, 三恵社, 2022. (3月発刊予定)
- 3) 『深く理解し楽しく学ぼう!! AL型体育実技剣道』, 単著, 三恵社, 2022. (3月発刊予定)

* 1) は武士道についての研究成果。

* 2) 3) は武道教育の指導法についての研究成果。

【学会発表】

- 1) 高瀬武志・東海林祐子「大学体育におけるアクティブラーニングの工夫と実践」第71回日本体育・スポーツ・健康学会 2021年9月7日 (オンライン発表)
- 2) 高瀬武志「大学体育における可視化教材の開発と使用モデルの提案ー剣道形の授業実践に着目してー」大学教育学会2021年度課題研究集会ポスターセッション 2021年11月27日 (ポスター発表)
- 3) 高瀬武志「体育実技の授業UDに関する実践報告ー剣道の素振り動作に着目してー」第10回大学体育スポーツ研究フォーラム 2022年3月3日 (オンライン発表予定)

【実践報告論文・研究ノート】

- 1) 高瀬武志『コロナ禍における体育実技のAL実践と受講生の学びー剣道の授業に着目してー』大学体育 118号, 2021年12月発行.
- 2) 高瀬武志『体育実技におけるAL型授業を通じた学習者の学びに関する一考察ー剣道の「踏み込み足」の習得を目指す学習課題からー』大学体育 119号, 2022年6月発行予定(投稿済)
- 3) 高瀬武志「コロナ禍における学生剣道部員の学びと気づきから考える指導とサポート」医療ガバナンス学会, 2022年1月25日メールマガジン配信.
- 4) Takeshi Takase, Chiharu Kawasaki, Akihiko Ozaki 「Management of university club activities in Japan and students' awareness under the COVID-19 crisis.」 Medical Research Information Center Global.2022年2月25日メールマガジン配信.
- 5) 高瀬武志「コロナ禍においても『学び』と『成長』を止めない」医療ガバナンス学会, 2022年3月配信予定(投稿済)

【全国版専門誌特集記事】

- 1) 高瀬武志「特集：いま活かしたいヒーローたちの突破力」剣道日本 2022年4月号 pp.60-67, (2022年2月25日発売)

【学会投稿論文】

- 1) 高瀬武志「剣道形の授業におけるアクティブラーニング型授業を取り入れた学習パラダイムの可能性の検討」日本アクティブラーニング学会.(査読審査中)
- 2) 高瀬武志「「授業UD」に基づく剣道指導法の有効性の検討ーアクティブラーニング型授業の実践からー」日本授業UD学会.(査読審査中)

3.今後の研究の展望について

今後は、国内と国外の剣道人口の推移等の比較から剣道界の抱える問題点を明らかにする。また、現代の武道教育の現場で継承されている武士道の在り方等にも着目して研究を進める。武士道の体系的なまとめと同時に武道教育の現状と課題の克服に向けた新しい提案を模索したい。

4.謝辞

森泰吉郎記念研究振興基金は、本研究の武士道思想の研究にあたる文献調査を推進するために役立つ文献・書籍や武道教育の新たな指導法開発に向けた実践研究ならびにオンラインでのインタビュー調査や剣道指導・交流会の開催(今後の研究の継続)に必要な機材の購入に活用させていただきました。この場を借りて感謝申し上げます。